

平成24年度建設副産物実態調査結果について（茨城県版）

1. 調査目的等

- (1) 建設副産物実態調査は、建設副産物対策の具体的な政策立案に必要な排出量や再資源化等の動向に関する実態を把握するため、全国の建設工事（公共土木工事、民間土木工事、建築工事）を対象に、平成14年度、平成17年度、平成20年度、平成24年度と実施している調査である。
- (2) 対象工事は、国、県、市町村等の公共工事と電力、ガス、電信電話、JR等の民間公益工事、建築業協会、日本土木工業協会、日本木造住宅産業協会、各都道府県建設業協会等の民間工事。

2. 調査結果

（国土交通省H25.3.31公表 茨城県内の公共、公益、民間工事を合わせた値）

茨 城 県	平成14年度 実績値	平成17年度 実績値	平成20年度 実績値	平成24年度 実績値	平成27年度 目標値
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	99.5%	99.6% 関東平均 99.0%	99.6% 関東平均 98.5%	99.2% 関東平均 99.7%	100%
コンクリート塊の再資源化率	99.4%	99.0% 関東平均 98.7%	99.5% 関東平均 97.3%	99.0% 関東平均 99.5%	100%
建設発生木材の再資源化等率(縮減含む)	92.8%	94.8% 関東平均 93.4%	97.7% 関東平均 89.4%	97.7% 関東平均 95.8%	97%
建設汚泥の再資源化等率	60.7%	94.7% 関東平均 74.8%	92.2% 関東平均 85.1%	83.4% 関東平均 81.9%	98%
建設混合廃棄物の排出量	7.2万トン	2.6万トン	4.0万トン	5.6万トン	H17比40%減
建設廃棄物の再資源化等率(全体)	89.3%	97.0% 関東平均 91.0%	97.2% 関東平均 93.7%	96.5% 関東平均 95.4%	98%
利用土砂の建設発生土利用率	55.1%	54.9% 関東平均 70.7%	86.7% 関東平均 78.6%	83.8% 関東平均 91.1%	92%

- ・ 前回調査(H20)と比較して、廃棄物全体で再資源化等率は微減であり、わずかではあるが目標を下回った。
- ・ アスファルト・コンクリート塊の再資源化率はほぼ横ばいであったが、建設汚泥の再資源化率が減少した。
- ・ 建設発生土利用率は前回調査時から減少した。

3. 今後の取組

- (1) 建設発生土の利用率が目標を下回っているため、建設発生土情報システムやストックヤードを活用して工事間流用の促進を図り、さらに新たな受入先の確保について検討していく。
- (2) 建設混合廃棄物の排出量が増加したため、分別・リサイクルを徹底するとともに、残さ物としての混合廃棄物の発生を極力抑制する必要がある。
- (3) アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊については引き続きリサイクルの推進に努める。
- (4) 実態調査のデータを解析し、公共工事や民間工事別のリサイクル対策を構築する。